

科目ナンバー	C7408	要件	教職必修 保育必修	授業形態	演習	対象学生	I A B I I C D
授業科目	保育内容演習（表現）						
実施期	前期 II CD 後期 I AB	単位数	1単位	授業担当者	川村 富子		
【科目の概要】							
生活の中で様々な環境から刺激を受けて心を動かし、その思いを自分なりに表現しようとする子どもの「表現」について学ぶ。子どもの発達の特徴を捉え、保育者として、その表現を受容的に受け止める感性や子どもの表現意欲を育むための保育内容について知識と演習を通して学習する。							
【この科目を通して獲得を目指す力】							【関連DP】
ア	保育の基本と領域「表現」のねらい・内容を踏まえた基本的な知識を身に付けている。						1-b
イ	保育者としての感性を磨き、子どもが表出する姿を読み取り、教材を開発することができる。						2-d
ウ	子どもの感性と表現力を豊かにするための指導の在り方について考えることができる。						3-c
エ	言葉や動き、音楽、造形等、子どもの表現について事例研究をし自己の向上に努めようとしている。						4-d
【授業の内容】				【実施日】	【授業時間外学習の内容】		
1	授業内容の概要、保育内容演習「表現」の意義			月 日	シラバスを熟読しておく。		
2	保育の基本と子どもの表現について			月 日	教科書を読み予習をしておく。 (0.5時間)		
3	領域「表現」のねらい及び内容について（保育所保育指針）			月 日	保育所保育指針のねらい・内容を読んでおく。(0.5時間)		
4	領域「表現」のねらい及び内容について（幼稚園教育要領）			月 日	幼稚園教育要領のねらい・内容を読んでおく。(0.5時間)		
5	子どもの存在と表現			月 日	生まれながらの表現とは何かを考えておく。		
6	子どもの豊かな感性と表現を育む環境			月 日	自分の育った園の環境を考えておく。		
7	諸感覚を通しての感性と表現			月 日	生活の中で身の回りで感じる五感について考えておく。		
8	生命に対する感性と表現 (獲得を目指す力の確認)			月 日	自然や生命について自分のエピソードをまとめておく。		
9	感性と表現 (1) 音楽			月 日	身近な環境の中での音楽や音を見つけておく。(0.5時間)		
10	感性と表現 (2) 造形			月 日	身近な環境の中での造形に関する事柄を見つけておく。(0.5時間)		
11	感性と表現 (3) 環境			月 日	子どもにとっての豊かな環境について考えておく。		
12	子どもの感性と表現を育む保育者の役割（発表）			月 日	表現者としての保育者の関わりについて考えておく。(0.5時間)		
13	子どもの感性と表現を育む園環境			月 日	豊かな園環境について自分の考えをデザインしておく。		
14	年齢に応じた教材研究・模擬保育（発表）			月 日	発達に応じた教材（絵本・曲・遊び）を探しておく。(1時間)		
15	保育内容演習「表現」の課題			月 日	授業で習得したことを振り返り話し合えるよう準備しておく。		
16	まとめと試験			月 日			
【教科書・テキスト】				【成績評価の方法】			
最新保育講座11 保育内容「表現」平田智久・小林紀子・砂上史子編（ミネルヴァ書房）				授業への関心・態度・意欲30% レポート・提出物20% 試験50%			
【参考書・教材】 保育所保育指針解説書・幼稚園教育要領解説・DVD・絵本等							
【履修要件及び履修上の注意事項】							
【履修上の遵守事項】 15分以上の遅刻は欠席扱いとする。遅刻3回で欠席1回とする。							
【連絡先・オフィスアワー】 連絡先： オフィスアワー：							

＜チェックシート＞					
指標		基準	レベル1	レベル2	レベル3
ア	保育の基本と領域「表現」の意義の理解		領域「表現」の誕生の意味を説明できる。	領域「表現」のねらいを述べるができる。	領域「表現」と他の領域との関係を理解し、「共通すること」を述べるができる。
イ	子どもの表出する表現を読み取る、保育者としての感性の構築		学内で、つどいの広場やちびっ子広場に訪れる親子に自分から話しかけることができる。	教科書や参考文献の事例を通し、子どもの表現や表出の様子を読み取り、文章化できる。	身の回りで見かけた子どもの様子を「表現」を中心にエピソード事例として書き出すことができる。
ウ	子どもの感性と表現力を豊かにする、保育者としての表情・しぐさ・言葉がけ等の指導力		人前で話をしたり歌ったりするときの自分の声の大小・高低・強弱等学生間で交流し合い、調整することができる。	子どもの身の回りの環境や保育室の壁面を飾ったりする保育のアイデアを環境の構成図として指導案に書くことができる。	子どもを褒める・励ます・認める等子どもの心を動かし、表現力を豊かにする関わりができる言葉を具体的に述べるができる。
エ①	「表現」に関わる事例からの学び、音楽や身体表現に関わる保育の技術向上		様々な社会生活や授業の中で、ピアノや歌唱指導等機会をとらえて人前で発表する経験をもつ。	手遊び・歌・ダンス・楽器演奏等、学生間で教材研究したり共有したりして、自らの表現意欲を高める得意分野を一つ以上獲得する。	自分の得意分野を伸ばし、子どものモデルとなる保育者として、人前で自分を表出することができる。
エ②	「表現」に関わる言葉や造形における保育者としての感性や表現力の向上		子どもへの援助に対して、個・グループ・集団に応じた言葉を使い分ける必要性を理解している。	様々な社会生活や授業の中で、説明したり場の雰囲気盛り上げたりする環境をつくることができる。	かいたりつくったり環境の構成を考え、身に付けた保育の技術を模擬保育で実践することができる。
この科目を通して学んだこと、獲得できた力、できなかった課題等					